月報

視聴覚教育

NO.448
発行日
31.3.1
編集・発行
岡崎市ＡＶＬ
編集協力
現職研修委員会
学習情報部

「平成三〇年度」を振り返って

学習情報指導員　村田　貴志

「平成」が終わる。三〇年前、公衆電話にテレフォンカードを差し込み、友人に電話した高校時代の自分を思い出す。それが今では、小型化された端末で、いつでもどこでも簡単に連絡が取り合える。「平成」は、本当に驚くべき速さで、情報技術が進展した時代であったと感じる。

岡崎市の教育の情報化に向けた環境整備も、毎年着実にその歩みを進めてきた。本年度は、市内全小学校にタブレット端末（ｉＰａｄ）が導入された。これにより、各教室で子供たちが、個々に情報通信ネットワークを利用できるようになり、授業の中での情報収集や情報の交流が、より行いやすくなった。また、プリインストールされた各種アプリケーションは小学生にも扱いやすく、ｉＰａｄを使って学習への興味を高めている子供の姿を見ることができる。こうして導入された機器を、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改革の一助として、今後もその活用方法の研究を積み重ねていきたい。

また、新学習指導要領に示されたプログラミング教育について、市内各小学校で先行的な実践が行われた。男川小と愛宕小の公開授業には、延べ二〇〇名を超える教員が参加し、この学習に対する先生方の関心の高さを感じた。現在、情報教育推進委員会では「プログラミング学習モデルカリキュラム」を作成している。新たな時代の幕開けとなる来年度は、モデル案に沿った授業が全小学校で実践され、プログラミング学習が本格的にスタートできると確信している。

更に、本市の視聴覚・情報教育が長年大切にしてきた活動に、自作教材の制作がある。先日結果が発表された県自作視聴覚教材コンクールでは、おかざき映像教材研究会が制作した教材が、本年度も高い評価を受けた。（下記参照）子供の心に響く授業を創造するため、こうした教材制作の伝統も大切に受け継いでいきたい。

時代がどんなに変わろうと、人の心を育てることは人にしかできないと感じる。変化の激しい社会を、わくわくしながら、明るく生き抜く子供を育てていきたい。視聴覚・情報教育の果たす役割は、今後ますます大きくなるだろう。

これ知ってる！？
ＵＳＢ2.0と3.0の違い

ＵＳＢ端子には2.0と3.0がある。主な違いは、転送速度と電力供給能力である。3.0の方が理論値で10倍、実効値で２～５倍、データの転送速度が速く、電力供給も大きい。ＵＳＢ3.0の発展的な規格として、より高速なＵＳＢ3.1もある。

＝視聴覚教育あれこれ＝

●平成30年度　愛知県自作視聴覚教材コンクール

今年度で63回目を迎えた愛知県自作視聴覚教材コンクールですが、残念ながら今回が最後の開催となりました。今回は、入選６点のうち５点が岡崎市から出品した教材でした。これらの教材は、２月19日（火）の学習情報主任会で各学校に配付されています。授業で積極的に活用していただけるよう、よろしくお願いいたします。

○最優秀賞・愛知県教育委員会賞
『心のふるさと　千万町楽校』
生涯学習部門・ビデオ教材
鈴木　広樹（額田中）赤堀大知（竜海中）
荒井奈穂子（岩津小）天野圭祐（東海中）
浅井　悠輔（恵田小）空中健一（岩津小）
吉田あゆみ（岩津小）佐渡英彰（下山小）

○優秀賞
『エネルギー資源の活用　～発電の今と未来～』
学校教育部門・ビデオ教材
矢部貴司（岩津中）高瀬玲子（愛宕小）太田尚志（北　中）
都築周平（竜海中）山口秀樹（竜美丘小）土屋翔平（北　中）
米澤和志（愛宕小）手嶋夕菜（羽根小）

○優良賞
『多文化共生社会　～日系ブラジル人の現状から見るこれからの日本～』
学校教育部門・ビデオ教材
森　綾子（竜海中）石谷遼一（生平小）成瀬正和（羽根小）
権田康成（福岡中）青山当知（北中）三浦愛一朗（竜谷小）
神野裕美（井田小）村田貴志（井田小）

○佳作
『情報ネットワークで変わる社会　～養鶏場の進化～』
学校教育部門・ビデオ教材
藤渕俊旭（矢北小）鈴木一史（竜海中）水野利明（矢作中）
原田康司（福岡小）長谷川誉幸（矢作中）田中章太郎（六名小）
山本順正（井田小）鈴木彩水（岩津小）
『天気ってなあに　～台風編～』
学校教育部門・マルチメディア教材
服部将也（梅園小）杉山康子（六北小）中山美奈子（竜南中）
柴田翔平（矢東小）岩川晧司（六北小）森　正吉（城北中）
天野泰国（福岡中）近藤雄一（六南小）

＝実践報告＝

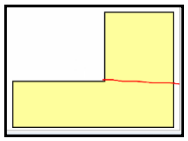
友達の考えと比較する

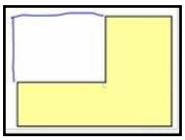
三島小学校　神谷　明彦

「正しい答えが出たら算数は終わり」と捉えている児童が多くなってきた。考え方を他者と比較し、その多様さを認め合うことで、深い学びを得られると考える。そこで、小学校四年生の算数、Ｌ字型の図形の求積方法を考える場面で、考え方を比較する場を設定した。

まず、図形に補助線をどう引けば既習事項で面積を求めることができるか、グループごとにｉＰａｄを使って考えさせた。ｉＰａｄに表示された図形に補助線を引いた後に、答えを求める上で必要な場所の長さを考え、画面に定規を当て計測し、答えを求めた。

次に「xSync（バイシンク）」を使い、児童から送られた画像を並べて表示し比較した。大型ディスプレイに映される画像を見て、自分たちの補助線の引き方と友達の違いを比べ「そんな方法でも求められるんだ」と感嘆の声が上がった。また、すぐに自分たちのｉＰａｄに同様の補助線を引き、友達の考え方の良さを確かめることもできた。





児童は、他者の考え方に触れたことで「他にどんな求め方ができるのだろう」と、他の解き方に目を向けることができた。xSync を使うことで、考え方を簡単に比較することができたので、正解にたどり着いて終わりではなく、多様な思考を認め合う大切さに気付くことのできる実践となった。

＝レッツ・トライ！ＩＣＴ＝

今回紹介するＩＣＴ　アプリ「日本クイズ」

四年生の社会科では、都道府県の名称や位置を扱う。しかし、なかなか覚えられない児童が多い。そこで、ゲーム感覚で楽しみながら学習できないかと考え、ｉＰａｄにインストールされているアプリ「日本クイズ」を使ってみた。

アプリを起動し、「ゲーム」を選択する。クイズは四種類あり、県名や県庁所在地を答える。どのゲームでも都道府県がランダムに選択され、その地図が点滅する。画面下部に四つの選択肢が現れるので、正解だと思う都道府県名をタップして進めていく。

いずれも、思考タイムが毎回表示されるので、児童は記録更新を目指して、友達と競い合いながら取り組んでおり、本アプリが楽しんで覚えるのに適していると実感した。また、不正解だと次に進めないことも有効である。問題は変わらずに選択肢だけが入れ替わるため、児童は分かるまでその問題に取り組むことができ、習熟度が高くなる。

社会科の授業の冒頭で毎回行うことで、日本地図に対する関心と理解を大きく高めることができた。類似した「日本地図パズル」というアプリも、楽しみながら児童が学ぶことができ、有効である。授業での積極的な利用を、ぜひお勧めしたい。

（六ツ美西部小学校　西片茂雄）

ライブラリーだより

市内の小中学生が、複数のコンテストで入賞を受けています。結果は次のとおりです。（敬称略）

●第３回日本こども映画コンクール
（毎日映画社主催）

【最優秀作品賞】
『磯の小人　タマキビの秘密
～エピソード３　立ち上がるタマキビ～』
大樹寺小学校　内田　崚雅

●第35回ＮＨＫ杯全国中学校放送コンテスト
（全国大会）

【優良賞】
〈テレビ番組部門〉
「僕がきみにできること」　北中学校
〈朗読部門〉　北中学校　兵藤　瑛美莉

（愛知県大会）

【優良賞】
〈ラジオ番組部門〉
「名前も知らない友達」　新香山中学校
〈テレビ番組部門〉
「地域に根差した環境学習」　新香山中学校

【入選】
〈ラジオ番組部門〉
「女子力って言わないで」　北中学校
〈朗読部門〉　竜南中学校　岩田　雪音

【編集後記】

一年間、編集・発行にご協力いただきありがとうございました。今後も皆様のためになる月報「視聴覚教育」作成に努めていきます。